

九州ルーテル学院大学

Teaching Portfolio

2025



所 属： 人文学科児童教育専攻・大学院障害心理学専攻

名 前： 増本利信

作成日：2025 年 4 月 30 日

教員氏名：増本 利信

所属：人文学部 人文学科 児童教育専攻

1. はじめに

2020 年 4 月に入職し、大学教員として支援者を養成する職務に従事してきた。本学の学生の勤勉さや真摯さに感動することが多く、社会で生きる人材の育成と、学生全員の心理的身体的に健康な成長を支える責務を強く感じている。2023 年より心理臨床学科から人文学科児童教育専攻に所属が変わり、小学校及び特別支援学校にて教育に携わる学生の指導を担当している。

本学スクールモットーである「感恩奉仕」の精神を具現化するために、実践を省察した。

2. 教育の責任

九州ルーテル学院大学での私の教育責任は人文学科児童教育専攻特別支援教育コースにおける専門科目と共通教育科目の担当である。

加えて、地域連携推進センター長として、学生と地域の有機的な交流を活性化することにも従事している。

(1) 授業科目の担当

共通教育科目として「人間と障害」「フレッシュマンゼミ」

特別支援教育一種免許状科目として「発達障害教育総論（心理等）（教育課程等）」「知的障害者の心理・生理・病理Ⅰ」「知的障害教育総論Ⅰ」「特別支援学校教育実習Ⅰ・Ⅱ」

大学院科目として「障害者支援学」

■ 主要授業科目

「知的障害者の心理・生理・病理Ⅰ」

この科目は、特別支援学校教諭一種免許状（知的・肢体・病弱）を取得希望する学生を対象としており、特別支援教育免許状を取得する際の必修科目である。知的障がいのある方の心理的、行動的、認知的特性、および障害発生の機序等について詳述し、支援の場における正しい当事者理解や支援のあり方を学ぶ科目である。

「発達障害教育総論（教育課程）」

この科目は、特別支援学校教諭免許状を取得希望する学生を対象とし、免許状取得する際の必修科目である。言語障害、精神障害、学習障害などの発達障害のある子どもの支援について、アセスメントのあり方を通した指導計画立案と指導の実践について、具体例を交えた講義で学ぶ科目である。

「人間と障害」

この科目は共通の必修科目である。特別支援教育コースの3名によるオムニバス科目であり、私は「障害者と共に歩く教育者」の視点で、本邦における特殊教育黎明期に粘り強い実践を積み上げて、現代の特別支援教育への礎を示した先人を話題とし、教育者として障害をどの

ように捉え、どのように育ててきたのかについて省察を深める内容としている。

学部での教育以外の教育実践は以下のようなものがある。

長崎玉成高校職員研修会	「LD についての理解と支援について」
NP0 法人「それいゆ」職員研修会	「ADHD/LD について」
ジャパンライム発達支援 DVD	「発達障害の子どもにおけるビジョントレーニングと学習支援」
熊本県民カレッジ主催講座	「輝く個性③～学習症と発達性協調運動症」
長崎大学子どもの心の医療教育センター職業実践力育成プログラム	「発達障害のある子どもを取り巻く環境へのアプローチ」
	「LD の理解と評価」
日本 LD 学会大会シンポジウム	「高等学校における個別の教育支援計画のあり方について」

非常勤講師

熊本県立大学 特別支援教育
奈良学園大学 知的障害者の生理・病理

教育組織運営

2025 年度担当

学長補佐（研究・地域連携担当）

地域連携推進センター長 地域連携推進委員会委員長

教務部共通教育委員 内部室保証推進委員 自己点検委員 研究推進委員
相談員

3. 教育の理念

(1)理念1 自他の心情をしなやかにとらえ、人間的な成長を実感しながら過ごす。

不安な社会情勢の中で、心身ともに健康に日々を過ごすことは重要な課題となっている。学生が他人を愛し、自分へも自信を持って学習や生活を進めることができるように意識して関わりたい。

(2)理念2 クリティカルな思考スタイルを身につける。

溢れる情報に惑わされることなく自己の考えを醸成することは、今後社会の成員として生き抜く学生に重要なスキルであると認識している。眼前の事象に常に「なぜ・どうして」と問い続ける態度を養うように意識して関わりたい。

(3)理念3 正確なアセスメント力と適切な指導技術を身につける。

支援者としてクライアントと対する際には豊かな人間性に支えられた適切なアセスメント力と、効果的な指導計画の構築、幅広い支援技術の習得が不可欠である。主観に頼りすぎず、客観に惑わされない、適切なバランスを持った支援力を養うように意識して関わりたい。

4. 教育の方法

(1) 授業課題への適切なフィードバックとコメントの充実

授業によっては、授業毎のリフレクションを課題として提示している。まずはそれぞれを次の授業までに精読し、教授が不十分な内容がないか把握したい。その上で学生の理解を確認し適切な理解を賞賛し、点数とコメントによるフィードバックを行いたい。その際、授業内容以外のやりとりについても重視し、大学生活への不安を軽減し意欲的に日々を過ごすように学生理解に努めたい。

(2) リフレクションの考え方の醸成と新聞記事などの活用

前述したリフレクション課題について、自身の理解を確認し、自発的な追調査からの理解や、新たな疑問を整理するなど、本課題が自身のための記録であることを常に意識させるような言葉かけを行いたい。また、講義において時事的な話題や推薦図書を紹介することを通して、学生が自己の周囲だけでなく社会の成員として批評的思考を持ち生活するきっかけを与えたい。

(3) 現場での支援を通じた実践的な対応の紹介

学校現場における児童への支援の様子を、アセスメントー計画ー支援ー効果の流れに沿って適宜提示することにより、具体的な支援のあり方が実感を伴って伝わるように工夫するとともに、教育現場の文化や雰囲気に対しての理解を深めることを通して、教育職の価値ややりがいについても伝わるように意識したい。

5. 教育改善のための努力

(1) 改善努力Ⅰ 授業評価アンケートに基づく授業改善報告書

授業評価アンケートにおいては、リフレクションの意味が分かりにくかったという意見を得た。今後の授業において適宜リフレクションの意味と価値を伝えけるとともに、適切なリフレクションに対しては具体的な称賛を心がけたり、必要に応じて他学生への紹介を行ったりして全体の理解と意識を高めたい。

(2) 改善努力Ⅱ セミナーや学内 FD/SD への参加

発達障害領域における知見や支援方法は現在活発に議論や開発が進んでおり、日々のアップデートが不可欠である。諸学会へ参加し、最新の情報を得ながら自己の支援技術を高めることを意識したい。また、学内の研修会においても積極的に参加するだけでなく主体的に学ぶ意識を忘れずに、緒先生方に指導を請いながら自己の教育力を高めたいと考えている。

6. 教育の成果・評価

単元目標とシラバスに沿った内容となるように心がけながら準備をしたが、十分ではなかったと感じている。学生に提示するスライドについては、視覚的に分かりやすい図示を心がけるとともに、カラーユニバーサル視点から配色を配慮しながら作成した。反面、学生同士の交流を促進する授業の進め方については、対応が不十分であったと感じている。今後も学

生の授業評価で挙げられた「交流の機会の不足」「学修ペースのつかみにくさ」については授業運営で意識する必要がある。

7. 今後の教育に関する課題と目標

学生が見通しを持って学修に取り組み、意欲的にかつ内容理解を深めることを目指すためにも、まずは授業において単元全体や本時の展開について説明する時間やスライドを確保してきちんと伝えることを重視したい。また、学生が私に対する質問を行えるように Mentimeter にて匿名での質問ボックスを設けて吸い上げ、授業において答えることで安心して学びに集中できるようにしたいと考えている。

加えて、単元の評価については評価の素材や規準となるルーブリックを明確に示し、取り組みの方向を示すようにしたい。

【根拠資料】

(1)担当科目シラバス

(2)授業評価アンケート結果